



今年は弘前アメダスの消雪日が3月18日（平年4月11日）と平年に比べてかなり早く、その後の気温も高めに推移したことから、ふじの「発芽日」が平年に比べ9日程度早く進んでいます。また、この先も気温は平年より高めに推移することが予想されています。

本年の薬剤散布（展葉1週間後）は、生態が進んでいることから平年より早くなることが想定されています。黒星病防除を徹底するためにも「生態に合わせた」適期防除を心がけ、散布が早くなっても対応できるよう剪定枝の片付けやSSの整備など準備を万全におこなきましょう。

## 1. りんごの生態 → 平年に比べ9日ほど早く進んでいます！

品種 管内	発芽日			芽出し当時			展葉日			備考
	和徳	藤崎	平年	和徳	藤崎	平年	和徳	藤崎	平年	
つがる	3/30	3/31	4/9	(4/4)	(4/5)	4/15	(4/8)	(4/9)	4/19	和徳管内：津賀野地区 藤崎管内：五林地区 を観測しています。
ジョナ	3/29	3/30	4/7	(4/2)	(4/2)	4/13	(4/5)	(4/5)	4/16	
王林	3/29	3/30	4/7	4/1	(4/2)	4/13	(4/4)	(4/5)	4/16	
ふじ	3/30	3/31	4/10	(4/4)	(4/5)	4/15	(4/7)	(4/8)	4/18	平年値は当組合生観圃平均

## 2. 薬剤散布 → 1回目の散布は生態を見ながら適期に散布を！その後は10日間隔を守ろう！

消雪日や積算温度から予想すると、今年の黒星病菌の飛散は4月11日頃から始まる見込みです。前年の感染が少なかったからと油断せず、剪定による空間確保や散布経路の見直し等を行い、散布ムラを少なくしましょう。

散布量	散布時期	対象病害虫	基準薬剤及び調合順序	1,000ℓ当りの薬量
1 展葉1週間後 400L/10a	4/16～17頃	モニリア病・腐らん病 <b>黒星病</b> リンゴハダニ・ハマキムシ類 キンモンホソガ・ギンモンハモグリガ	精製マシン油(97) 200倍 ダーズバンDF 3,000倍 ベフラン(液) 1,000倍	5ℓ 2袋(334g) 2本(1ℓ)
2 開花直前 500L/10a	4/26～27頃	モニリア病・ <b>黒星病</b> ハマキムシ類	カナメ(F) 4,000倍 カスケード(乳) 4,000倍	1本(250ml) 1本(250ml)

この時期の散布は、葉がまだ小さいから「ゆっくり丁寧に」散布すればムラも少なくできるよ！

※昨年リンゴハダニの発生が多かった園地では、1回目の散布を「越冬卵防除」のために特に丁寧に散布しましょう！

## ◎散布タイミング◎

・「展葉1週間後」の散布は、葉が5～6枚展葉した頃を目安に、その前後の降雨に合わせて降雨前散布を行いましょう。

・2回目以降の散布は、前回の散布から10日後を基本としますが、昨年のように2回目の散布までの間で生育が停滞した場合は、開花直前散布との間に特別散布を行う可能性があります。

～今後の防除のポイント～

- ①天候を考慮しつつ生態に合わせた防除
- ②特別散布の準備  
(生態の進みが遅れた場合の対応)
- ③散布量をしっかりと



展葉1週間後頃の散布適期

## 3. 人工授粉 → 早めに花粉を準備し積極的に行いましょう！

近年、開花期間中の強風や低温などによりマメコバチの活動が不安定な年が多く、結実不良が毎年心配されています。そのため、マメコバチの巣箱設置はもちろんのこと、人工授粉も積極的に行いましょう。

また、昨年の貯蔵花粉については、低温の影響等により発芽率の低いものが散見されるため、発芽率を確認し石松子の割合を調整しましょう。花粉が足りない場合は、お早めに各支店へお買い求め下さい。